

リレー連載生ヒストリー温故知新
第21回 宮原 豊さん (65期)
その2：同窓会への想い

長い間、期の代表幹事として関東同窓会にかかわってきました。役員としての経験はありませんが、最近の動向を踏まえていくつか提言させていただきます。

伝統の力というものは確かにあると思います。これは先輩たちが長年蓄積してきた経験や財産（剰余金や特別会計だけではなく知的財産・ノウハウも）です。これは本当に有難いものです。しかし、それに頼りすぎてはいけません。往々にして年長者は自分の経験から老婆心（老爺心）ながらと、自分の考えに固執することが少なくありません。しかし、時代の変遷により現状が大きく変わっていることに気が付かないことがあります。

もちろん同じ人間のやっていることに今も昔も変わらないものもありますが、1990年代中頃から2000年を境に仕事のやり方はずいぶん変わりました。バブルの崩壊もひとつの要因ですが、インターネット時代になってからの世の中の変化は大きいのです。年代的には（今の）70歳前後を境にデジタル・デバインド（IT情報格差）が生じ、人間の本質が全く変わった訳ではないとは言え、我々高齢者は格差の弱者の側に属することになってしまいました。要因は必要性和動機でしょう。しかし、動機はあっても若い世代には当たり前前のパソコン操作に付いて行けないのです。

情報化は通信に大きな変化をもたらしましたが、プラスとマイナスの両面があると思います。大量同時発信やスピーディな通信を可能にした反面で、個人情報保護や管理が面倒なことになりました。便利なのに実に不便なのです。また、面を広げる上では便利なのに、個々の関係を深める上ではかえってマイナスなのかもしれません。しかし、便利なツールですから、如何に使うかだけです。大きな変化に対応するためには、想像力を膨らませなければ方向性が定まりませんが、未来なんて誰も見通せません。しかし、同窓会や故郷会の運営にとっては目の前に明らかな変化が押し寄せています。一つは、少子化です。これは日本社会全体として、一人っ子が多くなり、結果として大学進学も就職も地元に残る人が多いことです。それに加えて、上田高校の場合は、在校生の男女比がいつの間にか女子が半分以上を占めていることです。私は以前どこかに「試百難」というタイトルで書いたことがあるのですが、若き乙女たちがあの上田高校校歌を高らかに歌っている姿を思い浮かべながら、松尾が丘の「いざ百難に試みむ」は女子にこそ引き継がれ、チャレンジは今や女性にこそ相応しいと書きました。草食男子などという言葉が流行りましたが、女性の方がよっぽど能力も腕力も度胸もあるかもしれません。

ひと頃、300人近い参加者数を誇った総会は、もう一昔前の男性社会の伝説になりました。これからは、活動方針を一変し、そのために同窓会の役員・幹事は多数の女性に活躍していただき、活動内容も場所も時間も手法（ツール）も根本から変革して

行かなければならないように思います。誰もが参加したくなるような、例えば家族・子供も一緒に参加できるイベントにする（夫婦の一方が上田高校出身であれば会員資格）とか、ノミュニケーション（飲食）を主体とする集いは同窓会が一部補助する「男性会員の部会活動」（女性を排除しないが）とするとか、そんな時代になったのかもしれないと思います。昔の染谷が丘高校同窓会の運営が参考になるのかもしれませんが。

デジタル化やウェブ化については、今期の執行部はいろいろ新しい提案をされました。今後も、スマホによる Line や Facebook 等を使って時代に合った利用を研究しなければならないでしょう。そうは言っても、現在層の厚い会員は 70 歳代、60 歳代であり（いわば金ずる）、会費収入の上でも 60 歳以上の会員を蔑ろにはできませんが、IT を活用した活動は不可避と思います。これも諸先輩の残してくれた財産ですが、幸い会報は既にデジタル化されており、ホームページを如何に便利に活用していくかというだけの話だと思います。ここまで既に進んでいるのですから、何も面倒なことはありません。

そう考えると、（幹事会で提案された）90 期以降の若手からウェブ化の実証実験を始めるということですが、90 期以降は当たり前で、実証実験というなら 80 期以降と 10 歳上のレベルで実施するくらいが適当と思いました。個人差はあるとは言え、私の個人的な観測ですが、80 期どころか 70 期より若い世代にデジタル・デバイド（情報格差）感はありません。

若い人の考えで、ワイワイ楽しく思い切ったことをやったらいいと思います。少子化で先細ることが見えているのですから、若い人が楽しくやることが最重要です。年長者に対する敬意に留意してもらえればいいと思います。まずは執行部が楽しまなければならず、それで若い人が楽しくなり、若い人が楽しければ年長者も楽しいのです。

「なるようにしかならない」とは言いませんが、若い人が自分たちにとって面白いことをしなければジリ貧になってしまいます。いつの時代も「今の若い者は・・・」と言われながらやってきました。とにかく「よく学びよく遊べ」の精神で楽しく「いざ百難に試みむ」です。百難と言うほどのことでもないです。同窓会は仕事じゃないし、借金してやるわけじゃないから破産することもない。そう思えば気が楽で、何でも試してみたらいいのだと思います。（了）